

**製品名: MAK ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13602**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	71kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAK
別名	MAK; Serine/threonine-protein kinase MAK; Male germ cell-associated kinase
遺伝子 ID	4117.0
SwissProt ID	P20794
免疫原	抗血清はヒト MAK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 126-175

**背景**

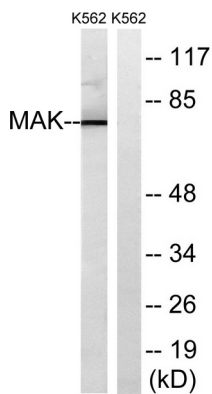
この遺伝子産物は、細胞周期制御に関与するキナーゼに関連するセリン/スレオニンプロテインキナーゼです。マウスおよびラットの相同遺伝子研究により、このキナーゼは精子形成における減数分裂中の染色体、特に相同染色体が対合している際に存在するシナプ

トネマ複合体に局在することが示されています。この遺伝子の変異は、網膜色素変性症 62 を引き起こす織毛異常と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2016 年 1 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: 精子形成において重要な役割を果たす可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr プロテインキナーゼファミリー。CDC2/CDKX サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。組織特異性: 主に減数分裂時および減数分裂後に精巣細胞で発現する。

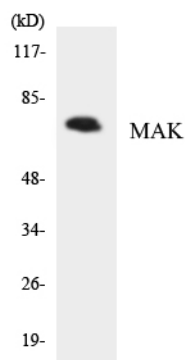
## 研究分野

シグナル伝達; タンパク質リン酸化; Ser/Thr キナーゼ; その他のキナーゼ

## 画像データ



MAK 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



MAK 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。